



ひかりのこ

2023年度 5月号

日本キリスト教団
名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索



ペンテコステ（聖霊降臨日） 5月28日

「ペンテコステ」とは「50」という意味です。イースターはイエスさまが復活された日。このイースターから40日目の木曜日が「昇天日」、イエスさまが天に昇られた日です。イースターから50日目の聖日が「ペンテコステ」、イエスさまが天に昇られた後、神さまからの聖霊が私たちに降された日です。この「ペンテコステ」の翌週の日曜日が「三位一体主日」で、「父」である神さま・「子」であるイエスさま・神さまからの「聖霊」、この3つが一体のものであると確信された日です。いずれもイエスさまの十字架から続いている暦です。

今月の聖句 (2023年度教会聖句)

へいわ じつげん ひとひと さいわい ひと かみ こ よ
平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
 (マタイによる福音書5:9)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 110 (ばらばらおちる)



今月の礼拝では、旧約聖書の創世記から、「神さまが造られた世界」について学びます。今月のさんびか110「ばらばらおちる」は神さまが造られた世界をわかりやすく表現しています。

作詞者の中田羽後(なかだ うご)さん(1896-1974)は秋田県で牧師の家庭に生まれました。後に日本ホーリネス教会の牧師となり、アメリカ・ロサンゼルスに留学後には音楽伝道に生涯を捧げました。また、ヘンデル《メサイア》の公演にも力を注ぎ、日本語訳『救世主』(1953)の出版にも携わりました。作曲者は不詳ですが、1923年に出版された『日曜学校讃美歌』には“Song of Raindrops”(雨のしずくの歌)と原題が表示されているので訳詞の可能性もありますが、元の曲などは詳しくわかっていません。

「雨」「雪」「星」「鳥」といった何気ない自然を取り上げ、なぜ降るのか、なぜ舞い落ちるのか、なぜ光るのか、なぜ歌うのかと問いかけ、「花を咲かすため」「枝に服を着せるため」「暗い夜道を照らすため」「世界の人に神の愛を知らすため」と応答しています。それら何気ない自然、神さまが造られたこの世のもので、意味のないものはない、すべては「極めて良かった」(創世記1:31)という聖句を歌詞にしています。だからこそ、神さまに造られた私たち一人ひとりもまた、生まれてきたことに意味があり、一人ひとりが大切な存在なのだ、ということを考えさせられる歌詞でもあります。下行型のメロディで雨が降り、雪が舞い落ちる雰囲気表現し、全体の構成もAA'BA'の構成で、後半のBA'の部分で「答え」を表現しています。とても覚えやすく歌いやすい賛美歌で、これまでも何度か歌ったことがありますが、あらためて歌詞の意味を考えて歌ってみましょう。

マスク着用もそれぞれの判断になり、少しずつではありますが「顔が見える」世の中に戻つつありますね。それは単なる「顔」だけでなく、お互いの表情や感情まで感じることができます。このことは、私たち人間にとって、とても大切なコミュニケーションだとあらためて感じます。

みなさんは新しい学年、新しいクラスでの生活は慣れたでしょうか。お互いの表情に注目して、新たな出会いを大切に！

今月の礼拝 単元2: 神が造られた世界 📖…お話し 🎵…奏楽

月日	週題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生) 9:00~9:30	プレイ・タイム (小学生/中学生) 9:35~9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00~10:20
5月7日	世界の始まり	創世記 1:1-2:3	📖 武岡 基 🎵 武岡路実	母の日プレゼント作り (担当: いづみ・路実)	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
5月14日 母の日	アダムとエバ	創世記 1:26-27, 2:4-25	📖 安達正樹牧師 🎵 堤 砂里奈	母の日プレゼント作り (担当: いづみ・路実)	📖 安達正樹牧師 🎵 堤 砂里奈
5月21日	最初の罪	創世記 3章	📖 堤 砂里奈 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈
5月28日 ペンテコステ	復活の証人	使徒言行録 2章	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ	ペンテコステ行事	📖 安達いづみ 🎵 武岡路実

「母の日」教会から始まりました

アメリカ・ウエストバージニア州の小さな町ウェブスターのメソジスト教会に、ジャービス夫人という教会学校の教師がいました。ある日曜日、彼女は「十戒」の中から、両親を敬うべきことを教え、最後にこう語りました。「みなさんの中から、お母さんの愛に心から感謝する方法を教えてください。私には望みます。」その後、1905年にジャービス夫人は亡くなり、その2年後の1907年に追悼集会が開かれました。娘のアンナ・ジャービスは、母の言葉を思い出し、この追悼集会にたくさんのカーネーションを飾って、亡き母を偲び、感謝を表しました。これが人々に大きな感動を与え、いつしか、この習慣は人々の間に広まりました。1914年、アメリカ議会は5月の第2日曜日を「母の日」として決めました。

みなさんもジャービス夫人の言葉「両親を敬うこと」の大切さを思い、「両親からの愛に感謝する方法」を考えてみましょう。

おたんじょうびおめでとう🎉

5月生まれのお友だち

「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう？教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、日本に住む多くの人々が持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇め、神さまを賛美する場ではありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけてくださるのです。これが「前奏」「招詞(招きの言葉)」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話し」です。「説教」「お話し」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰であっても、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福(祝祷)」「後奏」で終わるのです。